



2006年
(平成18年)
7/20
第1473号

あだち広報は毎月10日・25日、
ズームアップは奇数月発行

あだち 広報

●発行/足立区 ●編集/計画課
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1
☎3880-5111(代)
FAX 3880-5604(計画課)
<http://www.city.adachi.tokyo.jp/>

足立区ホームページ
二次元バーコード読み取り機
能付き携帯電話でご利用にな
れます



～ 新たな埋立処分場はもう作れません ～

ごみの減量にご協力ください

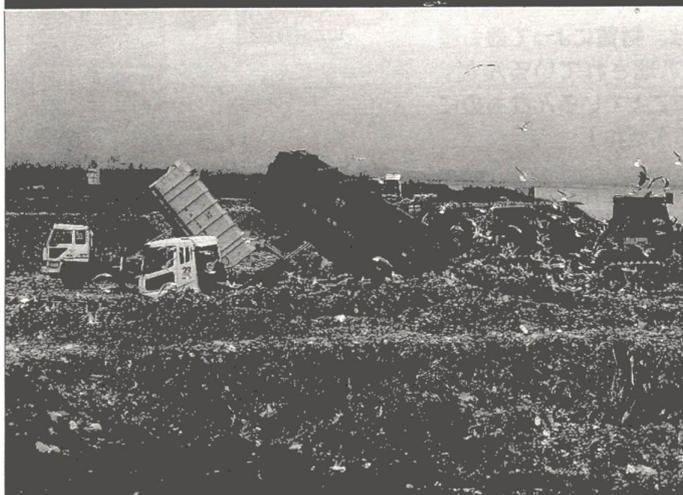
区内で出されたごみは、清掃工場で燃やしたり、細かく砕いたりして、最終的に埋め立て処理をしています。

現在の埋め立てをしている埋立処分場（新海面処分場）は、23区で使える最後の処分場で、ここ以外に埋め立てできる場所はありません。

最終処分場を1日でも長く使用していくために、区民の皆さん一人ひとりが、ごみの減量に取り組むことが大切です。



写真提供：東京都港湾局



▲限りある大切な埋め立て処分場

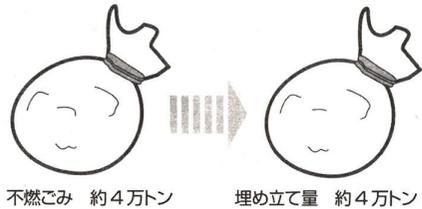
平成20年度から廃プラスチックのサーマルリサイクルを開始します。 ～埋め立て処分場を1日でも長く利用するために～

現在、不燃ごみの約50%を占めるプラスチックは、そのまま埋め立て処理され、最終処分場の寿命を縮めています。また、石油資源からできているプラスチックをそのまま埋め立てることは、貴重な資源を無駄にすることにもつながっています。そのため、東京23区は、プラスチックを可燃ごみに分別して、*サーマルリサイクルをすることで、資源の有効活用に努めていきます。

❗ ※サーマルリサイクルとは・・・
廃棄物を清掃工場で焼却する際に発生する熱エネルギーを回収して、温水供給や発電に活用することです。

【現在】

現在、区から出る不燃ごみは、年間約4万トンです。不燃ごみは、そのまま埋め立てられています。



不燃ごみ 約4万トン

埋め立て量 約4万トン

プラスチックは、細かくしてそのまま埋め立てられています。

プラスチックを可燃ごみに分別することで埋め立て量も減り、燃やすことで熱エネルギーも増えるのね。



【サーマルリサイクル実施後】

不燃ごみの約50%を占めるプラスチックが可燃ごみに分別されると、埋め立て量が約2万トンになります



不燃ごみ 約4万トン

埋め立て量 約2万トン

熱回収することで発電したり、焼却灰はスラグにすることで、再利用することも可能になるんだ。



サーマルリサイクル Q&A

安全面
安全面はどうかしら？
ダイオキシンの発生と心配よね

清掃工場ではプラスチックを安全に焼却する体制が整えられています。ダイオキシン類などを捉える高性能のフィルターを設置したり、ダイオキシンが発生しない温度(800℃以上)で焼却炉を運転しています。また、その他の有害物質についても、排ガス・排水浄化装置により周辺環境に影響を与えないように運転しています。



分別区分
可燃ごみと不燃ごみの分け方が変わるのかしら？

プラスチック・ゴム・皮革製品について「不燃ごみ」から「可燃ごみ」に分別が変更になります。
※ゴム・皮革製品については家庭から出るものが対象です。
※他の可燃ごみと分けて出す必要はありません。



スケジュール
明日からプラスチックを可燃ごみで出していいいの？

18～19年度に地域を限定したモデル収集を行い、20年度から区内全域で本格実施します。モデル収集実施期間中、清掃工場での焼却データを検証して、排ガス・排水等の安全性を確認した上で、区内全域でプラスチックのサーマルリサイクルを行います。モデル収集期間中の清掃工場の排ガス・排水の測定データは、足立区や東京二十三区清掃一部事務組合のホームページなどで公表します。



足立区のごみの現状

■ 1日に出されるごみの量 ■

足立区で1日に出されるごみの量を清掃車の数であらわすと・・・



可燃ごみ 325.0t
清掃車 203台分



不燃ごみ 106.9t
清掃車 126台分

ごみ処理経費
区民一人当たりの
ごみ処理経費は、
年間約14,000円

1kg当たり
56.5円

毎日、清掃車で約330台分のごみが出されているんだ！それに、ごみの処理にはお金がかかるんだ！
もっとごみを減らそう！



(数字は平成16年度実績です)

足立区のごみ減量の取り組み

■ ごみ・資源の処理の流れ ■

▼ 可燃ごみ

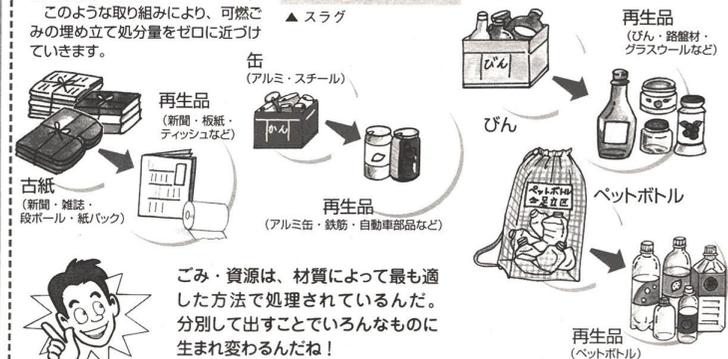
清掃工場で焼却して減量・減容した上で、埋め立て処分します。さらに、灰溶融処理施設で、焼却灰を高温で溶融することで「スラグ」を生成します。焼却灰はスラグ化することで容積が半分に減ります。また、スラグは砂の代替材料となるため、路盤材などに活用できます。
このような取り組みにより、可燃ごみの埋め立て処分量をゼロに近づけていきます。



▲ スラグ

▼ 資源

家庭から出るごみの中には、紙、びん、缶、ペットボトルなど資源として利用できるものが多くあります。これらの資源を分けて出すことで、新たな再生品を生み出すことができます。



ごみ・資源は、材質によって最も適した方法で処理されているんだ。分別して出すことでいろんなものに生まれ変わるんだね！

足立区では、最終処分場の延命と資源循環型社会の形成のため、平成17年度からペットボトルと紙バックの分別回収を始めましたが、埋立処分量を減らすには、さらなる工夫が必要です。

生ごみ処理機購入費用を補助します



【対象】区内在住の方で、過去3年間助成を受けていない方(1世帯1台限り)
【補助金】生ごみ処理機・コンポスト化容器の購入価格の2分の1(上限2万5千円)
【問い合わせ先】
環境推進課普及啓発係 ☎3880-5860

区では、ごみの減量をテーマにしたビデオ広報ルックinあだち「今日から始める3R～ごみ減量大作戦～」を作成しました。区政情報室や区立図書館で貸し出ししています。くわしくは広報課広報係まで。

【問い合わせ先】
広報課広報係 ☎3880-5815

わたしたち一人ひとりが、ごみ減量のためにできること

① まずは、ごみを出さない生活をしよう!



不要なレジ袋や包装は断る



無駄な買い物をしない



繰り返し使う



食事を残さず食べる
(残飯はごみになります)



直して繰り返し使う



詰め換えできるものを買う

② ごみを出すときは、きちんと分別しよう!

「分ければ資源、混ぜればごみ」



資源(古紙・びん・缶・ペットボトル)は分別して資源回収に出す

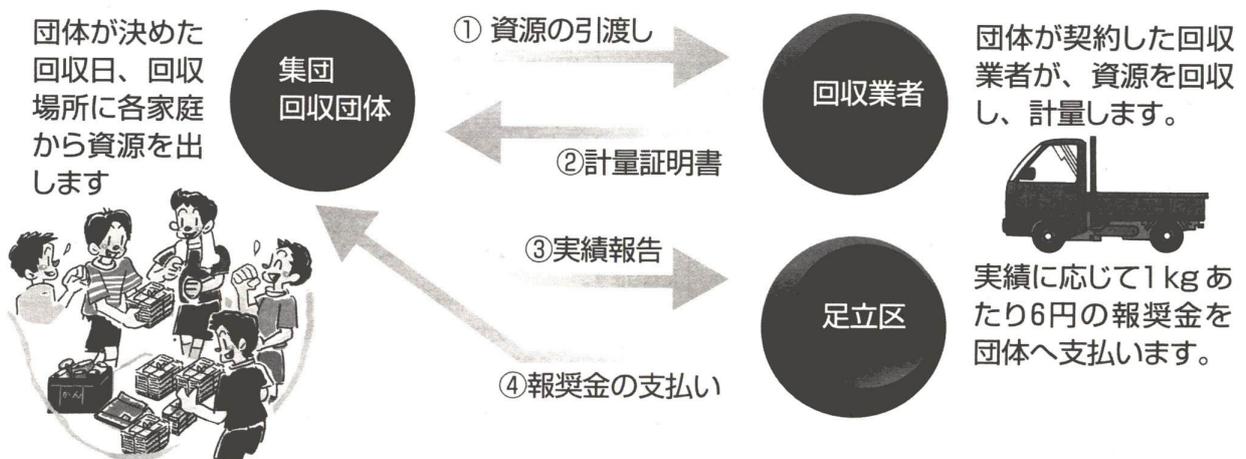


町会・自治会・マンションなどの管理組合で資源の集団回収を行う

集団回収を支援しています

▼ 集団回収ってなあに?

町会・自治会・子供会や集合住宅の管理組合などのグループが、自主的に資源を回収して回収業者に引き渡す資源のリサイクル活動です。現在、約650の団体が活動しています。



集団回収のメリット

- 資源の持ち去り防止に効果があります。
- 集団回収を通じて地域の交流が図れます。
- 質の良い資源が集まります。
- 資源の回収量に応じて報奨金が支給されます。